



リハビリテーション rehabilitation

- 「リハビリテーション (rehabilitation) 」の語源は

「re (再び) 」

「habilis (適した) 」

「ation (にすること) 」

「再び適した状態にすること」を意味しています。

リハビリテーション rehabilitation

- 1982年12月3日 第37回国連総会 国連・障害者世界行動計画
- 身体的、精神的、かつまた社会的に最も適した機能水準の達成を可能とすることによって、各個人が自らの人生を変革していくための手段を提供していくことを目指し、かつ時間を限定したプロセスである

リハビリテーションの概念

1. 権利・名誉の回復 (1456年)
2. 健康の回復 (1940年代)
3. 希望の再獲得 (1950~60年代)
4. 人生の再開拓 (1960~70年代)
5. 地域社会の再構築 (1970~80年代)

権利・名誉の回復

- Reclothe
- 再び (re) 着せる (clothe)
- 「社会におけるその人の正当な権利と機能を取り戻す (restore) こと」



Jehanne Darc

健康の回復

- 究極的に、すべてのリハビリテーションの成功は患者自身にかかっている
- リハビリテーションを信じることは、人間性を信じることにほかならない
- リハビリテーションは生命に年齢を足すことでなく、年齢に生命を足すことである



Howard Rusk

希望の再獲得

- 「希望で現実を覆うことは、非現実的な世界を生きるという意味でない。障がいを受け容れることは、希望を消し去るという意味ではない」
- 障がい受容、希望を持って進むこと、希望を捨てて動かないことの間には、大きな差がある
- 「希望の再獲得」とは、失われた希望自体を取り戻すために動くというリハビリテーションである



Beatrice Wright

人生の再開拓

- サービス支援の専門職が再び人を健康にするという意味で、「人を動かす」リハビリテーションもある。しかし同時に、本人が主体者となり「自分で動く」というリハビリテーションもある。これは、ふさわしい自分を自ら開拓する、自分らしさを取り戻すといった、本人主体による行動としてのリハビリテーションである。自動詞としてのhabilitateに、“toqualifyoneself”（自分をふさわしくする）という意味があることから、リハビリテーションが、「受ける」ものではなく「獲得していく」ものであることがわかる。



Jessie Jackson

地域社会の再構築

- 我々が障がい者を違う人であると感じる限り、彼らのニーズは見過ごされ続けるだろう。彼らを哀れんでいる限り、我々は慈善の対象として見続けるだろう。問題が我々（us）と彼ら（them）である限り、アメリカは障がいのある人のハンディキャップを作り続けるだろう
- 周囲が障がいを生み出す社会そのものの再生、被災地の復興、発展途上国の再開発・再振興、家族・地域・学校・会社等の再生、地球環境の再生といった幅広い意味まで拡大解釈が可能となるリハビリテーションの概念



Frank Bowe

ノーマライゼーション normalization

- ノーマライゼーションとは、高齢者や障がい者などの社会的弱者を特別視せず、誰もが同等に生活ができる社会を目指す考え方
- ニルス・エリック・バンク-ミケルセン
- ベングド・ニリエ
- ヴォルフ・ヴォルフエンスベルガー



自立生活運動 IL運動

- 人の手助けを借りて15分で衣服を着て仕事に出かけられる人間は、自分で衣服を着るのに2時間かかるために家にいるほかない人間より自立している



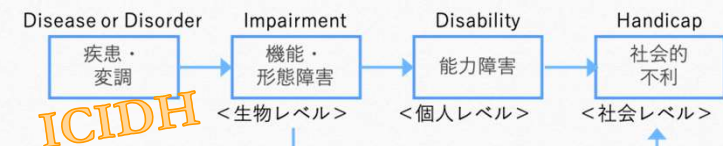
ICF

International Classification of
Functioning, Disability and Health

ICF（国際生活機能分類）


International Classification of Functioning, Disability and Health

- マイナス から プラス
- 心身機能 から 生活・人生
- 受け身 から チャレンジ




医学モデルと社会モデル

医療モデル
国際障害分類 (1980)



社会モデル
国際生活機能分類 (2001)



出典：岡耕平 慈恵医療科学大学院教授（博士・人間科学） No.6誰もが安心して社会参加できる世の中に向けて

医学モデルと社会モデル

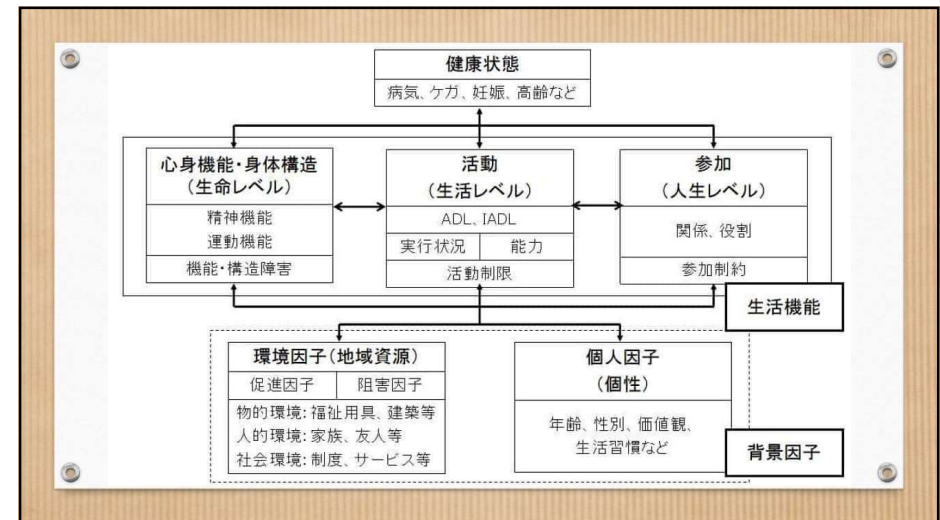
	障がいの医学モデル	障がいの社会モデル
障がいとは	個人に起こった悲劇 障がい者個人の問題	社会的差別や抑圧、不平等 社会の問題
核	機能回復	権利
価値	均質性・差異の否定	多様性・差異の肯定
視点	障がい者のどこに問題があるか 「変わるべきは障がい者」	社会のどこに問題があるか 「変わるべきは社会」
戦略	機能的に“健常者”になることでの自立 統合・同化・リハビリテーション	障がい者のままで自立 社会変革・インクルージョン、エンパワメント、社会運動、自立生活運動、権利擁護運動
障がい者	治療の対象	変革の主体
社会	物理的環境	構造と制度、人々の関係
重要な分野	医療	権利、行政、制度、経験、社会開発、市民運動

出典：久野研二・中西由起子著『リハビリテーション国際協力入門』三輪書店、74頁

医学モデルから統合モデルへ

	医学モデル	統合モデル
基本ターゲット	病気中心	生活機能（特に活動と参加）
活動・参加低下の原因	病気の帰結	病気、環境因子、個人因子 及び生活機能自体が相互に関連しつつ影響
ものの見方、働きかけ方	マイナス中心。マイナスを正常に戻す	プラス（可能性）を見つけ引き出す
個人の履歴・特徴（個性）	あまり重視せず（疾患の状態中心）	個人因子（生活歴・ライフスタイル・価値観など）の尊重
本人の姿勢への影響	受け身・依存性（医療の場がこのようにしてしまうことが多い）	積極的・参加的・自立的・自覚的（正しい知識・理解のもとに）
専門家の本人への態度	パターンリズム（父権主義）	自己決定権尊重（本人の積極的関与）

出典：https://www.mhlw.go.jp/shingi/2008/09/dl/s0917-6a_0004.pdf



ICF（国際生活機能分類）の誤用例

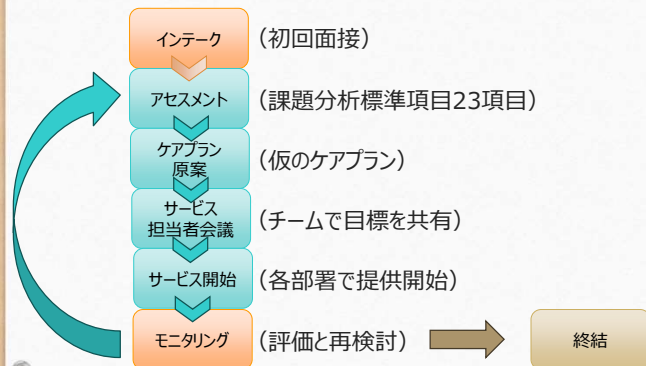
- ICFモデルについての誤解からくる誤用
 - ICFは「社会モデル」だという誤解
 - ICFは「医学モデル」と「社会モデル」との「折衷」だという誤解
 - マイナス面の評価を中心に使用するという誤り
- 「活動」と「参加」の概念的区別の不徹底又は混同（同一視）
- 「活動」の「実行状況」と「能力」との区別があいまいであることによる誤用
- 「個人因子」を軽視する誤り
- ICFのコードを引用することがICFに準拠しているとする誤解

出典：<https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000002ksqi-att/2r9852000002ksx3.pdf>

ケアプラン

～活動と参加～

ケアマネジメントプロセス



アセスメント 課題分析標準項目（23項目）

- 基本動作
- 生活状況
- 利用者の被保険者情報
- 現在利用しているサービス状況
- 障害老人の日常生活自立度
- 認知症老人の日常生活自立度
- 主訴
- 認定情報
- 課題分析理由
- 健康状態
- ADL
- IADL
- 認知
- コミュニケーション能力
- 社会との関わり
- 排尿・排便
- 褥瘡・皮膚の問題
- 口腔衛生
- 食事摂取
- 問題行動
- 介護力
- 居住環境
- 特別な状況

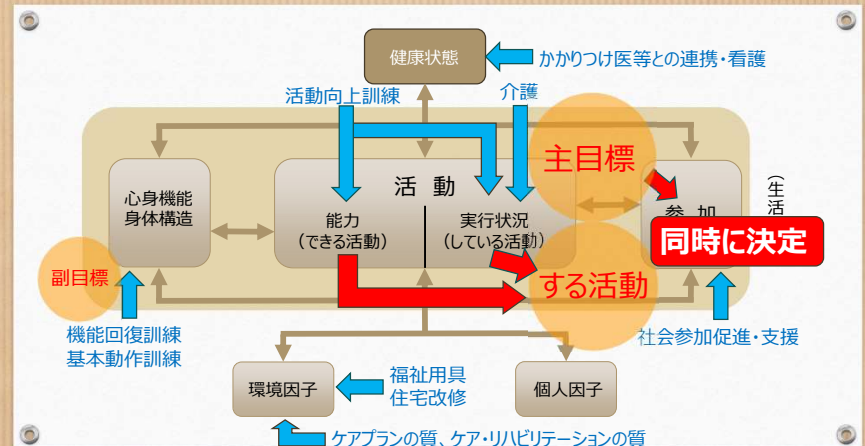
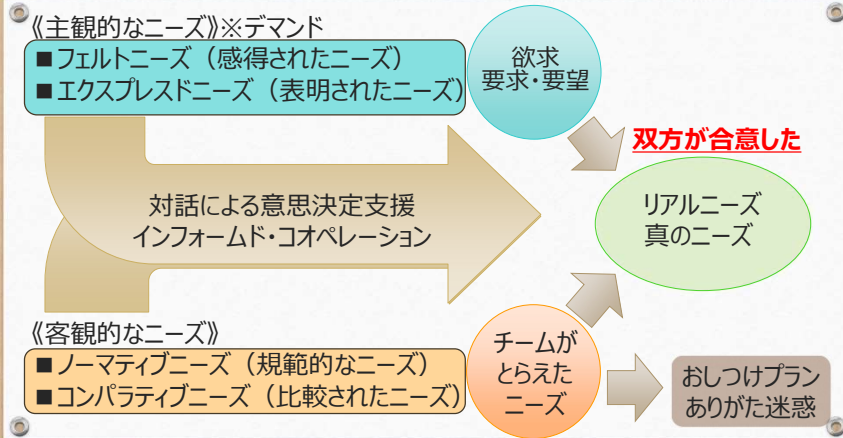
アセスメント様式 8種

- 居宅サービス計画ガイドライン (居宅4割)
- 包括的自立支援プログラム (特養5割・老健3割)
- R4 (老健2割)
- MDS-HC方式 (インターライ方式)
- ケアマネジメント実践記録方式
- 日本介護福祉会方式
- 日本訪問介護振興財団版方式
- TAI方式

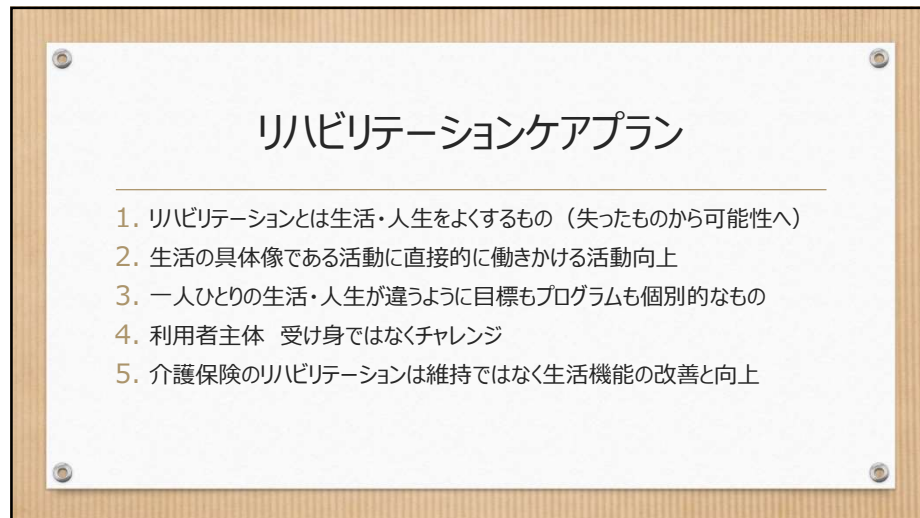
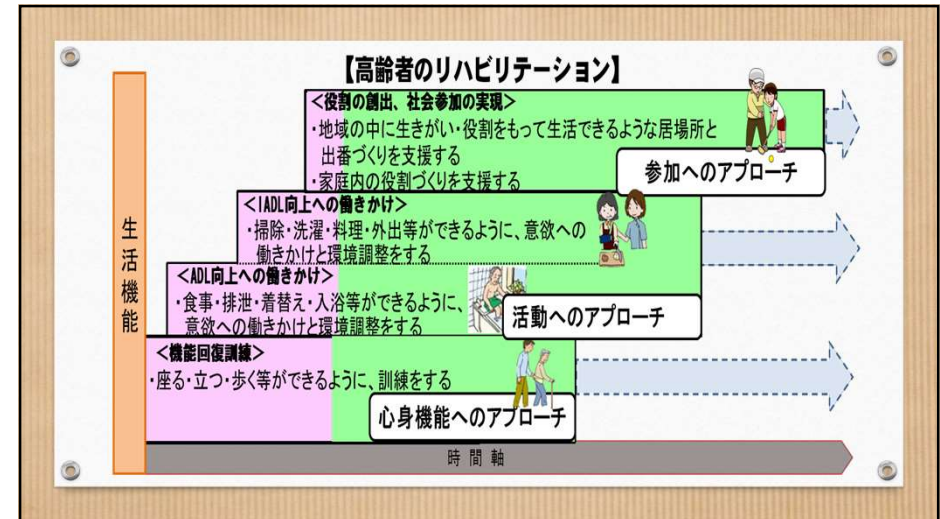
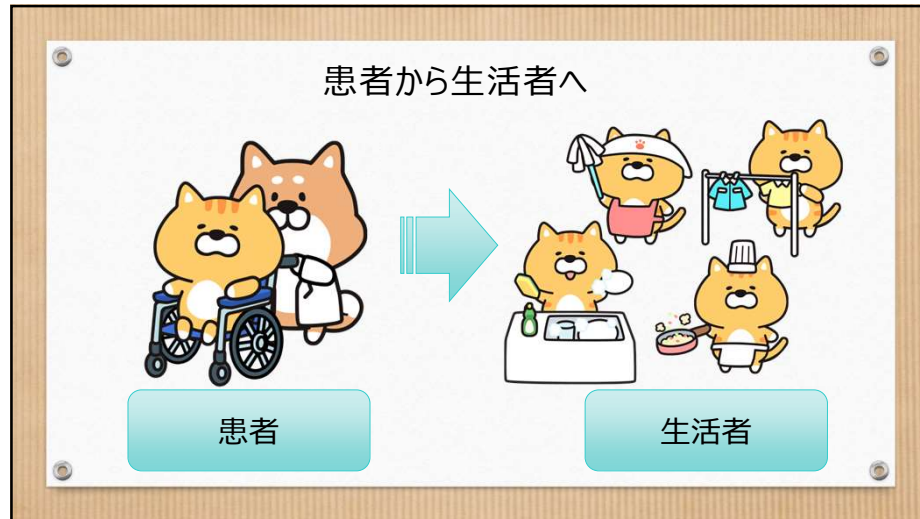
介護保険法

介護予防に支援に係る効果的な支援の方法に関する基準

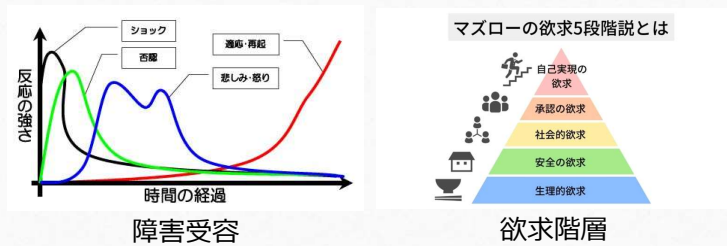
- 第1条の2 利用者の選択に基づき行われる
- 第29条2 **目標指向的介護** 予防サービス計画を策定
- 第30条21 医療サービスの利用にあたっては医師の意見を求める
- 第30条22 訪看・通所リハ等の医療サービスでは医師の指示がある場合に限る



出典：大川弥生 介護保険サービスとリハビリテーション 2004.9.9項



“参加” を仕掛ける



“参加” を仕掛ける

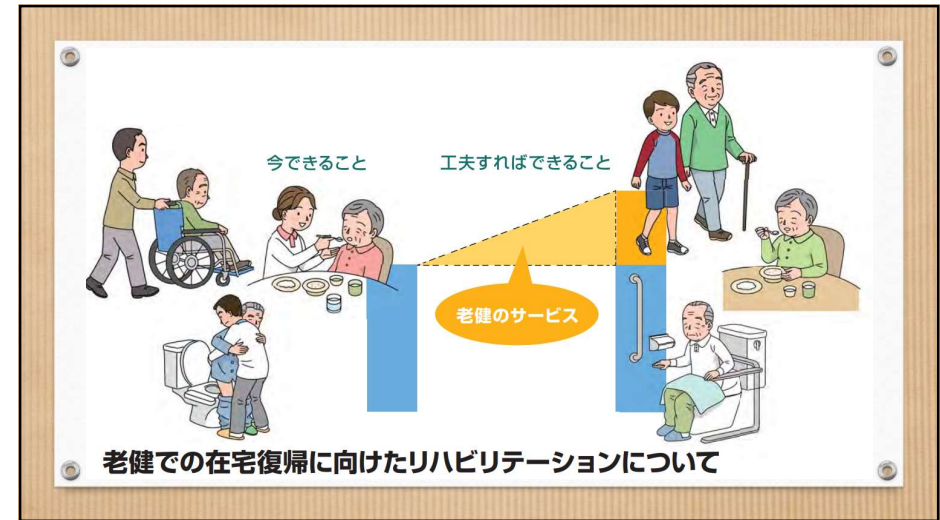
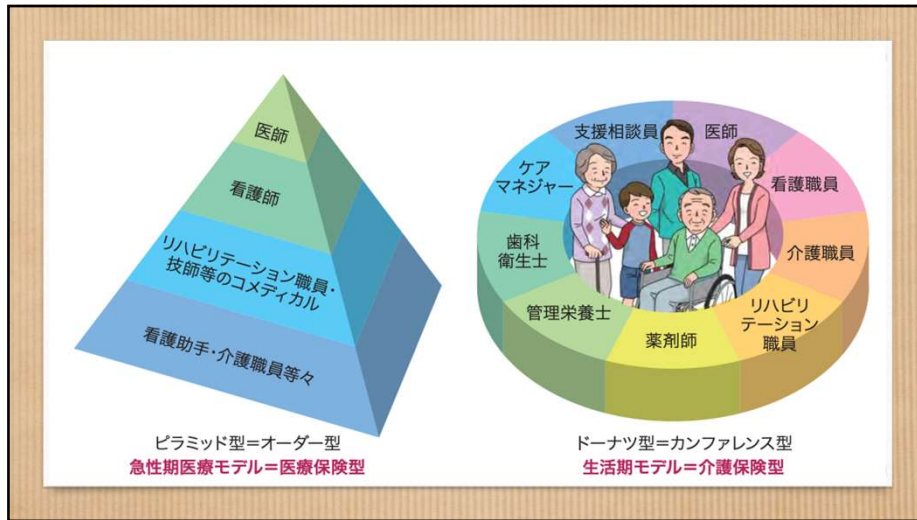
- イベントへの“参加”
- イベントでの“役割”
- 誰かの為に
- 思い出の中に
- 新しい価値観を



人生と価値観


- 人生史
- ライフストーリー・ライフヒストリー
- ナラティブ
- 人それぞれの価値観を知る





さいごに、、、

- 障がいがあってもなくてもともに生きていける奄美を目指したい！
- ノーマライゼーションという概念を生み出し、形作った北欧の国々は福祉大国と呼ばれています。
- この奄美が **福祉の島**と呼ばれるくらい、ノーマライゼーションを広げていきたい。



お問い合わせ

jim@nijinooka.net
0997-54-8888
080-2784-7592